

第38回 DAAS運営委員会 議事要旨(案)

日 時：2019年7月11日(木) 15:00～17:20

場 所：公益財団法人 建築技術教育普及センター内 第4会議室
千代田区紀尾井町 3-6 紀尾井町パークビル3F

1. 出席者 (順不同)

運営委員長：本多委員 (山下設計)

委 員：三塩委員 (日本設計)、葉石委員 (建設業連合会)、阿部委員 (BCJ)、
原田委員 (住団連)、安生委員 (日建設計)、倉田氏 (新建築社)

事務局：武藤

2. 配布資料：

資料1 運営に関して:これまでの打合せ報告

資料2 国土交通省への提出資料(2019/4/17 および 2019/6/3)

別紙1 第13期総会資料・第6回理事会資料一式
第37回 DAAS 運営委員会議事要旨

3. 議事：

[報告事項]

・運営に関して:これまでの打合せ報告

・国土交通省への提出資料(2019/4/17 および 2019/6/3)

[承認事項]

第13期総会資料・第6回理事会資料

■ 承認事項

[総会資料訂正項目等についての説明]

別紙1に基づき事務局より説明を行った。

[第12期収支計算書(案)]

第37回運営委員会で委員からの指摘により支出科目の金額について会計士と相談の元、適正な科目への訂正を行った旨を説明し、委員からの承認を得た。

主な修正点:管理費/雑費支出を減額(補助金事業の年度を越えた作業の継続にかかる支出分を、コンテンツ整備事業費(事業費)と管理費の適正な科目へ振り分けをした)

〔第13期収支予算(案)〕

第37回運営委員会で委員からの指摘により、第12期収支計算書(案)の執行金額と照らし一部予算額の訂正を行なった。金額の減額分の表記記号を修正を加える事を説明し、委員の承認を得た。

〔第13期・第14期理事・監事(案)〕

第14期末がDAAS活動の目処をつける時期であるため、理事・監事は変更せず継続する理事・監事(案)を作成した旨、事務局より説明をし、委員の承認を得た。

〔第13期事業計画(案)〕

第37回運営委員会で提出した資料について基本概要に「具体的方針を示す」を追記・修正した旨事務局より説明をし、計画案を示したが、委員からの意見を受け改めて文言の検討と計画の表記順等を修正することとなった。修正案については、後日メールにて事務局にて委員に諮ることとなった。

〔第13期・第14期役員名簿(案)〕

理事長の変更、副理事長・監事の継続、笠理事長の顧問就任等の名簿案を示した。尚、仙田満氏・南川理事の役職は会員名簿と揃え修正すること、理事の表記順、役職名は、名簿に揃えて全て修正を加えることとなった。

【第13期事業計画(案)について、以下質問・意見、等】

(事務局)国土交通省との打ち合わせでは、予算としても2020年末が決断する時期という共通の認識である。しかし、第13期事業計画(案)にはその期日は示していない。

(三塩委員)事業収支としては貯金を切り崩している状況で第14期には繰越金も終わるとのこと。資料のA-1からB-2までの4つの選択肢のいずれになるか、これから具体的になるわけなので、その点も計画に書いてもよいのではないか。方針を定めるのが第13期の事業方針であるならば、予算収支を勘案し「後がない」ということを総会に出席する会員も理解してもらわなければいけないことである。一方、第13期事業計画(案)に第14期のことはまだ書く必要はないのかもしれないという考え方もある。

(事務局)期日となる「第14期にむけて」という文言を事業計画(案)に加えるべきだろうか。

(三塩委員)もう少し踏み込んだ文言でもよいように思う。またそのことも見据えながらも、この事業、コンテンツ制作を続けるのかどうか、ということについてはどうだろうか。

(事務局)貴重な資料の維持・管理、保管先が第一条件、最低条件としている。「資料を後世に残す」という目的は国土交通省との共通認識ではある。

(三塩委員) 事業計画(案)の項目を入れ替えるだけでも随分と違う印象になるのではないかと。整備は粛々とやるのだが、(3)の企画運営部会を冒頭に持つてくる、とすると今までとは違う、というメッセージにもなるのではないかと。他の方の意見も伺いたい。

(本多運営委員長) 順番を変えるというのも良い案である。

(三塩委員) 第13期の危機感をどうメッセージとして伝えるか、ではないかと。基本方針に沿う場合、(3)が筆頭にあがるということを総会の資料説明で一言申し添えるという方法でも良い。公益的活動は継続する、ということを基本方針で謳っていることは良いと感じる。国庫補助金もあるため、新しいコンテンツも制作する、Webサイトは基本なので維持管理を行うというところもそれでよい。国土交通省やその他機関との協議、内部ではなく、外部と組み立てていく段階になっている。

(本多運営委員長) 運営体制の「安定化」という点が現状とずれてきているということだろうか。

(三塩委員) そうである。どこまで計画(案)で言葉にするかというところではある。第14期が最後、判断の時期であることを発信しなければいけないと思っている。

(事務局) 「第14期末を目標とした」という言葉を追加するのではどうだろうか。

(三塩委員) 少し過激だろうか。第13期が終わるという時期の総会であるので、第14期総会をいつ、と描いているか、ということにもよる。

(事務局) 2020年2月以降となるだろう。

(三塩委員) 2月の総会での計画をどう言葉にするか、ということもある。

(本多運営委員長) 次期総会をできるだけ早めに開催する、ということか。

(三塩委員) 次回の総会は早期に開催ということでも良いのではないかと。何か一言追加することではないかと。第14期の方針が見えてくれば、次の総会で示せるということになると思われる。内部の委員会での検討を受け、外部との具体的な接触、交渉を活発にする、ということではないかと。この計画(案)では内部の体制を書いているが、第13期は外部との接触をはかりDAASの今後を探る、という具体的な行動とすれば、とそれは計画案に含めてもよい。窮状を訴えつつ、大事なコンテンツを守らなければならないこと、そのためには「外部との接触を」さらに「強める」「深める」「回数を重ねる」などが第13期の活動である。第14期でその接触や意見集約の活動が実り、結論がでる、ということ、第12期は、第13期とは違うということ、実際に第13期は仙田先生も含め具体的な行動をおこしていること、など、それらを第14期の事業報告で具体的に書けるであろう。委員会や事務局は危機感を持って意見を集めているのであるから、それが第13期の事業計画(案)としてはどうか。

(事務局) 事業計画の順番を変えるということにする。

(三塩委員) 順番を変えるのであれば、総会では口頭で補足説明を加えるとよいのではないだろうか。(3)の内容も具体的に書かれている必要がある。外部との接触、などの言葉が必要、関係者のヒアリングを行う、など実際にやっていることを包括的に書く必要がある。第12期とは明らかにやっていることが違う。昨年と同じ事業計画(案)とするのは適切ではない。

(事務局)事業計画(案)は、文言を検討し、表記順を修正をすることとする。改めてメールで委員に確認をする。承認を得てから総会案内をすることとする。各議案は総会案内時に示す必要があるため。総会日程については役員に確認をして8月23日としている。

(三塩委員)承認を急がなければいけない。

(本多運営位委員長)事業計画(案)は、文言の一部修正、順番の修正、および会員名簿と各名簿(案)の修正などを含め改めてメールで委員に連絡し、承認をえることとする。

(三塩委員)収支予算の予備費の件について、前年度との違いは何によるのか。予備費が下がるということは何にかかるのか。収入が減っているということか。

(事務局)収入も減り、単年度赤字分で予備費も圧縮されているという状況である。

(三塩委員)そこを説明して危機感をもってもらい、というところだろうか。予備費を食いつぶしているという状況、それで収支を回しているということを伝える必要がある。重要なメッセージとして窮状を伝える必要がある。

(本多運営委員長)総会での数字読み上げ後、その点を補足説明する。

[報告事項]

・運営に関して:これまでの打合せ報告

・国土交通省への提出資料(2019/4/17および2019/6/3)

資料2に基づき事務局よりこれまでの事務局での活動について説明を行った。国土交通省からは建築五会(建築学会・建築家協会・士会連合会・日事連・建設業連合会)へ「今後のDAASのあり方についての検討」の要請をしたという話を聞いたため、7月9日に国土交通省に状況確認をした旨加えた。

国土交通省の意見は以下

- DAASはコンソーシアムであり会員ではない”国土交通省がDAASをどうするかと判断する立場にない”
- DAASの運営が厳しいこと、来期が判断時期という状況は理解している
- 会員、民間での運営が厳しくなっている。DAASの「やめ方」「しまい方」を考えなければならない時期だと考えている。
- そのような中で重要なのは、設計業界、建築業界として「どうしたいか」ということで、五会のいずれかでDAASを維持できるのであればそれで良い。その回答を五会からまっているという状態である
- DAASの資料が貴重な資料であること、WEBサイトやデータについてもその価値は理解している。
- 資料を保管するだけでは意味がなく、WEBを継続して公開する必要がある。そのため費用が100万、また、「DAAS」という名前を残す、ということが最低ライン。ただし、WEBサイトを公開するためにはDAASのサービス(特に有償利用)も継続する、

そのための人件費も必要となればあと100万程度というところまで視野に入れる必要があるのではないか

以上が国交省としての意見。

笹理事長、仙田理事長の意向

- 資料を保管するだけでなく、資料を運用できるようにしたい。そのためにもNPOでのDAASの運営方法、金沢工業大学でのサポートなども検討中であるが、各関係箇所との交渉もする必要があり、決定事項はまだない。

【以下質問・意見、等】

(事務局) 五会会長会議が7月8日行われたということで、回答の有無を国交省に確認したが、まだ回答はない、ということだった。

(三塩委員) 五会会長会議というのは会長が出席ということだろうか。

(葉石委員) 五会会長会議は基本的には会長、専務理事、日建連だけは建設設計委員長で会長は出席していない。

(三塩委員) 会議でのいくつかの議案の一つとして検討されたということだろうか。五会へDAASから働きかけの必要があるのだろうか。

(事務局) 国土交通省から五会へDAASについての働きかけをした件について、連絡がなかった。接触する必要はないと思われる。国交省も同様に危機感を持っている、働きかけをしていること、それとは別に仙田先生、笹先生が検討されているということがある、という状態である。

(本多運営位委員長) 働きかけもできないとなると、これからの一年少し、どのようなことを行なっていくか、意見をいただけないか。

(三塩委員) 事務処理に具体的にどの程度の時間がかかるかを逆算する、ということだろう。資料譲渡をすること、任意団体に登記をしているわけでもないのに、そのあたりの申し送りがどの程度の時間を要するか、の整理となるのではないか。

(事務局) それも、移行先と移行体制による内容となる。DAASがDAASとして形があるということあれば、さほど問題はない。ただし活動が縮小するということの説明、臨時総会を開く必要がある、ということなど。事務局員が残ることもないとすると、著作権の整理、一旦リスト化、の必要がある、ということ。

(三塩委員) 残務にどの程度かかるか。例えば半年でできるのか。それをいつからいつまでとするか。それが来年9月にびたりと終わるということではない、と予想する。DAASは9月が期末であるが、他の団体、組織は3月末である。その半年間を有効に使い、相手に移譲するのがその後の3月までとして、2021年4月から新体制でスタートできるようにするのが好ましいスケジュールではないだろうか。半年ずれているというのは幸いしているように思う。委員の中でカレンダーを作成し、共有する。そういったことを始めてはどうだろうか。総会、理事会、委員

- 会の日程設定もできるのではないか。それを作ってはどうか。相手ではなく「DAASで描く」「DAASではどの程度時間がある」ということを描いた方が良いと思われる。
- (事務局)例えばWebサイトの移行については、受け取る相手先により費用も、やり方も何パターンか考えられる。それぞれに書き出す必要もある。
- (三塩委員)それは、まず数ヶ月という設定をして、それより短い場合はそれでよい、その中で最長のパターンを検討し、期日を越えないようにするためにも、準備をする必要があるのではないか。おおまかな日程でよい。
- (事務局)解散等手続きについてはワーキングで整理したのもあり、組み立てられると思われる。
- (三塩委員)この場合はこうなるというフローが発生する場合は早めに進める必要もでてくる。すべてが並行してということならばよいが。事務局と委員会では、そのカレンダーを共有する必要。団体の「仕舞い方」は誰に相談すれば良いだろうか。
- (事務局)財団は経験があると思う。解散しないという方向もありえる。解散する場合が最長の手続きと想像する。
- (三塩委員)A-1からB-2という4つの選択肢のパターンをそれぞれ作るのも良いだろう。DAASの期のカレンダーと一般的な会計年度との関係がわかれば、というところ。第14期補助金が出るがその後は出ないかもしれない。
- (事務局)翌期も継続して補助金が出る可能性もある。一旦5年間の事業が終わり、改めての契約をすすめている。
- (三塩委員)その場合の手続きなどは、移譲先でも受け取るということもあるだろう。
- (事務局)補助金事業も事務局員一人では実施できないため、再委託という形だった、同様にすすめてもらうことでもよいだろう。
- (三塩委員)移譲先で検討すればよいことだろう。
- (事務局)DAASの資料は著作権が整理されていないため、他機関での資料の保管のみ、ということ実は難しい。利用しようがないからである。
- (三塩委員)DAAS-Webサイトは現在、受賞作品が自動で入ってくるようになっているのだろうか。
- (事務局)日事連は毎年いれている。JIAは一時的に入っていたが今は止まっている。
- (三塩委員)このあと継続的に資料が入る(追加・保存)仕組みがあれば、アーカイブとして新鮮である。その仕組みがあれば、それは将来に役に立つものとなる。各企業が有料で預ける仕組みがあってもよい。少なくとも五会の賞を受賞したデータは自動的にDAAS-Webサイトに入る仕組みが確率できていれば、存続の意味がある。WEBで作品を公開する仕組みがあることも悪くない。五会の表彰作品の各ページに行って作品を見ることができ、同じものがDAASでもみられる、DAASでは、もう少し俯瞰してみられるなど、それができていればそれも「あり」だろう。それをWebサイトの存続させる意義にする。団体もこの先どうなるかわからないという側面もある。アカデミック、広く地域の課題に向き合っている団体、どちらも意味があ

るが、アカデミックなところの限界感もある。団体の有りようも変化していくはずである。アーカイブ機能が一つに集まると建築の中の賞が今後ずっと残っていく、それがDAASで残るということも悪くないだろう。

(事務局)活動に参画していただいている団体・企業があるので、どうにか使えるようにして引き渡したいという思いはある。

(三塩委員)弊社も投資をして自社の仕事、作品のアーカイブ、作品だけでなく様々な事業のアーカイブを整備して記録に残すということの取り組みを始めている。これは各社やっていることかと思う。DAASが全て企業のアーカイブの面倒見るといふ他力本願なことは企業として無理で、自社でやり方を考え、組織を変えるなどと同時にすすめている。なぜDAASに集めなければならないか、ということになるとその理由はなかなか企業内では成り立たないかもしれない。しかし、五会、或いは学会などが評価した作品がみられることは業界の大きな流れになる。それを受け止める先がDAAS-Webというサイトの機能であればそれは生き続ける。新しいコンテンツはいくつか試行をしたが、それを実施するには尻込みをしてしまう。VRや図面の電子化、そういうものではない受賞作品のデータ、基本図、写真などのセットのみでも自動的にアップデートする仕組みを維持できるのであればそれはやりやすい。コンテンツを考えなければいけない、ということ負担になる。

(事務局)自動的に入る仕組みをもう一度やり直すということだろうか。

(三塩委員)300万という補助金をどう使って良いかということでもある。維持・管理に利用してもよいのであればよいのだが。オーラルのインタビューは他ではやっていないので良いコンテンツだと思われる。

(事務局)第14期考えたい。テキストデータ、作品の付随データも貴重な資料である。

(三塩委員)グーグルマップに作品の位置情報、所在はプロットされているのだろうか。外国の方が今後たくさん日本を訪れるだろう。DAAS-Webで作品の場所を確認できれば、興味がある人は利用する。建物の説明や詳細は他で検索しても良い。どこに行けば良いかがわかれば利用されるかもしれない。

(本多運営委員長)テキストデータも有効活用できるかもしれない。

(事務局)テキストデータは整備するのも大変である。設計者の解説も載っている。(作品ごとに)表記の差はあるが。

(三塩委員)検索された時にDAAS-Webサイトに誘導されるということも必要である。そうなればDAASが認知されやすく、存在が見えて活用されるという循環が出てくる。

(事務局)スケジュールと併せて「どう残していくか」意見をもらいながら検討していきたい。

(三塩委員)「DAAS-Webサイトはなんであるか」とあまり拵げずにシンプルにしていく必要がある。事務所をたたまれる方の手書き図面のデジタル化をストックすることはニーズは高い。デジタル化をすることを商売にしてはどうか、という議論があったが、商売にする団体でなかったこと、ハードがまだそういう時代ではなかったことなどがある。収蔵能力がアップしたところで、手書きで描かれた図面をコンテンツとしてやるかどうか。ハード面の限界値がないの

で、デジタル化する行為だけが必要となる。大日本印刷のデジタル化作業の窓口にDAASがなるのもよいということ。

(本多運営委員長)各アーカイブの現状として、金沢工業大学の話を聞くと、図面整理の作業が滞って溜まっているという話も聞く。

(三塩委員)今里先生はDAAS interviewに出演いただいたが東京藝術大学で資料を受け入れた。出身大学で図面の面倒を見るというケースは著名な方の場合はあるが、すべてがそのような条件に恵まれているわけではない。保存に残らない方もいる。どうしようか、と思われている方は相当数いる。だんだんと図面資料が消滅するという可能性がある。

(事務局)DAASにも個人事務所からの問い合わせがある。DAASにデジタルデータ化を行える機械があるわけでもなく、収蔵作品についても検討する必要があるため、早々受け取りはできないが、その前段階の「アーカイブはどのように整理すれば良いのか」という問い合わせもある。フォーマットはないか、という問い合わせでもある。

(本多運営委員長)これからの活動計画、カレンダーを作成するということで。

(三塩委員)それがあれば委員会、会員と状況を共有しやすい。移行先を決定するのを待っているよりは、僕らがやることが見えている方がよい。

(安生委員)三塩委員の話を伺っているとDAASの存在意義はまだまだある、と感じる。昔と違いアーカイブにかかる費用も低くなっている。

(事務局)メタデータが共有でき、活用できればよい、という事も考えている。あるデータの塊で、統計ができれば、設計に役立つ、街の認識が変わるということもあり得るのではないかと。残し方、あり方を考えたい。70年代の新宿の一面などもあり、街を再現することができる資料にもなる。Webサイトでは連続してみられないが、展覧会などで連続で見せられればとも思っている。

(本多運営委員長)引き続き修正箇所についてはメールで確認するというので、本日はありがとうございました。

以上